夕焼け通信1286号　2020.11.30

〒690-0823　島根県松江市西川津町4276-B402
miyaken@me.com　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/
編集 宮森健次

専業ババ奮闘記（その２）　32

# 木幡智恵美

## 産前休暇（4）

寛大が生まれた時、私はまだ非常勤で仕事に出ていた。朝夕、娘の食事作りやオムツの洗濯はしたけれど、日中は家にいないことが多い。「お昼ご飯の時は、お祖母ちゃんが寛大を抱っこしてくれて、その間に食べたよ」と、娘が言っていた。九十歳半ばの義母は、デイサービスに通いながらもまだしっかりしていた。

実歩が生まれる年の三月末、娘の里帰り出産で忙しくなることは分かっていたし、退職年齢に達していたこともあり、迷わず仕事を辞めた。五月二十八日の出産の立ち合いから始まり、出産後は寛大の面倒一切を引き受け、娘が実歩と我が家に来てからは、娘たち三人を含め七人となった我が家の家事をこなすことになった。「実歩を産んだ時は、お母さんが家にいてくれて、すごく楽だったわ」と、産休に入った娘が言った。娘は楽だったろうが、こっちは大変だ。寛大の身の回りの世話はもとより、情緒不安にならないよう気を遣い、おんぶや抱っこをせがまれると応じた。左側の腰に寛大を乗せて抱くことが多いせいか、左の腰が痛み出し、歩く際は脚を引きずるようになった。時間が空くと、娘の部屋に入り、置いてあるマッサージ機に身を投げ出し、背中から腰にかけて揉んだものだ。

さて、今回は冬だ。私の寛ぎの場である居間の炬燵を取り払って、娘と赤ん坊に引き渡すことになる。休憩場所は娘の部屋しかない。年末の大掃除を兼ねて、居間の大掃除をし、寛大や実歩に読んでやる絵本やおもちゃの類を娘の部屋に移した。赤ん坊が生まれたら、寛大と実歩二人の世話をしなくてはならない。夜、焼酎をちびりちびりやりながら録画していた番組を見ることもできなくなる。それでも、少しでも楽しむ時間も確保すべく、着々と、私の居場所作りに勤しんだ。焼酎のちびりちびりはできそうにないけど、少しゆとりがある時はマッサージしながら、パソコンでＤＶＤやＣＤ視聴はできる。あとは、生まれたら炬燵を運ぶだけだ。

そんな折、義母がベッド脇で滑り、立てなくなった。肺炎で入院した後、排泄、着替えなど介護することが増えてきたが、このタイミングでか。赤ん坊が生まれたら、どうなるのだ。楽しむ時間の確保など、できるのだろうか。



がらがら橋日記

# 宮森健次

## 職員室の風景⑦

担任に手をひかれて、男児が一人ぼくのもとへ連れてこられる。何かやらかした空気がびんびん伝わってくる。犯した罪に向き合っていれば、こんな体の揺れ方はしない。明らかに今の状況が不服であるらしい。見れば、以前官位を与えた子どもたちのうちの一人である。

乱暴な言動を取らなければ官位を与え、出世することを動機付けにしていたが、見た目にわかりやすいものがいいだろうと思い、その後「禅語」に変えた。『禅林句集』には、字数ごとに禅語が分離されているので、乱暴を抑制できたら字数を一字ずつ増やし、五字に至ったら終了とした。もともとが意訳を警戒する禅語であるので、意味などぼく自身がわからない。子どもたちには、「暗号なのだ」と言ってある。

件の子は、少し前に五字を得て晴れて卒業していたのだが、このたび教室の窓に蹴りを食らわしガラスを割ったのである。よくよく聞いてみると、ある子がくれると約束した物を他の子には渡しながら、その子にのみ渡さなかったのだという。さらにガラス越しに挑発したものか、激高して、気がつくと目の前のガラスは粉々に砕けていた。

「次はがまんします。」

どうすればよかったのかを問うたらそう言うので、「そりゃあ無理だ。まんまと乗せられたとはいえ、相手は君を怒らせようと意地悪をしたのだ。カッときたときにはもう蹴っていたろう？」

うなずく。蹴ってからびっくりしたんだと言う。物を壊さずにすむいい方法はないものかとしばし二人で考えた。

「先生にもらったおふだを三回読む。」

かわいいことを言う。

「うん、それはよい考えだが、ビリビリに破った方が気が済むかもしれん。それで手や足を出さずに済んだら、また新しいおふだを渡そう。」

笑顔でうなずく。おふだでガラスを守れたら、禅語の霊験いよよあらたかと言えよう。

翌日、ガラス屋さんを伴って、取り替えに教室に行く。わらわらと男児たちが寄ってくる。おふだを渡している少年たちである。ガラスを割った果の子も割らせるに至った因の子もいっしょにニコニコしている。

「先生にもらったおふだ全部持っちょう。」「ぼくも。」お母さんが大事にしているという子もあって恐縮する。

こうして仲良くしていながら、次はまたうなだれて職員室にだれかが来ることになるのだろう。「日々是好日」このおふだまだ渡していなかった。

**30代フリーター**　やあ、ジイさん。分断された社会の一方の側に立ち続けてきたトランプに対し、バイデンは統一を強調しているが、現大統領はさらに分断を深める気のようだ。

**年金生活者**　分断の一方の側に立っているのは、バイデンを擁した民主党の左派も同じだ。

トランプは鉄鋼などの衰退産業の立地するラストベルトの白人労働者を中心とした「忘れられた人々」の代表として、ワシントンのエスタブリッシュメントに「階級闘争」を挑み、「革命」政権をつくった。アレクサンドリア・オカシオコルテスら民主党の左派もまた、彼らが「格差」と呼ぶ「分断」の一方の側、貧者の側に立つ「階級闘争」を続け、政権奪取の寸前まで来た。

**30代**　日本でそれと同様の左派と言えるのは永田町では共産党とれいわ新選組くらいしかない。

**年金**　少数でもそれらが存在していることには必然性がある。だから「階級闘争」を叫ぶ中核派も命脈を保ち続けている。機関紙の「前進」は米大統領選を総括して次のように記している。

「バイデンは労働者階級の決起に戦々恐々としている。階級対立が米社会を引き裂き、公然たる内乱となって爆発するに至っている。そのためバイデンは、7日の演説で『団結』」『統一』を強調した」（11月16日　第3170号）。

**30代**　今どきレトロなマルクス主義の演説を聞くとは思わなかった。

**年金**　資本主義が隆盛に向かっていた19世紀のなかば、マルクスは広がる「格差」、深まる「分断」をプロレタリアートとブルジョワジーの「階級闘争」の激化としてとらえた。それが行き着いた先は彼の期待した社会主義社会ではなく、「平等」と「統一」を看板とする福祉国家だった。今それが崩れている。

欧米のローカルなシステムにとどまっていた19世紀の資本主義は、帝国主義の時代を経てアジアへ広がり、東西冷戦の終結とともに世界規模に達した。それが「平等」と「統一」を「格差」と「分断」にあと戻りさせ、「階級闘争」の新しい土俵を用意した。19世紀との違いは、当時の「格差」が生死を分ける絶対的な「格差」だったのに対し、現在のそれは少なくとも先進国や新興国では死にまで至らない相対的な「格差」にとどまっている点だ。

**30代**　新しい「階級闘争」はかつての福祉国家に相当するような「統一」に行き着くのか。

**年金**　それがあるとすれば、福祉国家の場合のような、国家だけを媒介にした「統一」ではなく、国家間システムを媒介にしたグローバルなものにならざるを得ないだろう。

**30代**　バイデンが大統領になっても「統一」は遠いな。

**年金**　彼の勝利はアメリカに「大きな政府」「反緊縮」路線が定着しつつあることを示している。グローバル化した資本主義が富の稀少性の縮減を加速するとともに、国家を市場に取り込んで自らの財布代わりにしてしまったことが背景にある。

経済学者の池田信夫は「トランプの大きな政府に対して、民主党はもっと大きな政府を志向している」と書いている（アゴラ、11月7日）。「共和党は伝統的に財政支出を抑制して減税を求めてきたが、トランプは減税だけを食い逃げした。連邦政府の今年度の財政赤字は（コロナ対策で）昨年度の3倍の3兆ドルを超えたが、物価も金利もあまり上がらない」として、トランプが共和党の伝統的な「小さな政府」路線を「大きな政府」路線にかえたことを指摘している。

バイデンは任期の4年間で2兆ドル（約207兆円）という巨額をインフラ投資などにあて、雇用を増やすことを目指している。ただ、民主党は下院で過半数を握るが、上院は共和党が多数を制する見通しだから、これほどの巨額の予算を組むのは困難と見られている。それでも、部分的には前進する可能性はある。「大きな政府」路線はアメリカの趨勢となっているからだ。

**30代**　財政赤字がたまる一方の「大きな政府」をどこまで続けられるか。

**年金**　デイビッド・ブルックスというコラムニストは「大きな政府の時代がやってきた」と書いている（11月6日朝日新聞朝刊、NYタイムズ10月22日電子版の抄訳」）。その背景を「調査機関ピュー・リサーチ・センターによると、15年には大半の米国人が『政府は、企業や個人に任せるべき仕事をやりすぎている』と考えていた。しかし今、そう考える人は39％で、59％は『政府はもっと問題解決に取り組むべきだ』と考えている」と説明している。

これまでアメリカでは、格差が広がれば「大きな政府」が、経済が停滞すれば「小さな政府」が求められた。今後は「大きな政府」路線が長期にわたって定着する可能性が高い。グローバル化にともなう格差の拡大がそれを必要としているからというだけではない。先進諸国でマイナス金利が定着し、政府がいくら借金してもインフレに陥る恐れがないことが財政出動をしやすくしている。

マイナス金利の定着は、資本が利潤をあげられなくなったことを意味する。資本主義の高度化とITを中心としたテクノロジーの発達が生産性を飛躍的に高め、モノやサービスの価格を絶えず低下させているからだ。

ニュース日記　764

**中村　礼治**

# 新しい「階級闘争」の時代